

創晶とファルマ・アクセス 受託事業開始

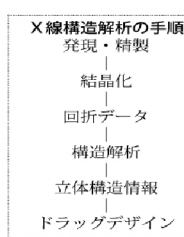
新薬開発を強力支援

×線装置を導入できるのが特徴だ。受託事業を通じて×線活用の裾野を広げる役割を担っている。事業内容はたばこ質の発現・精製から、構造解析、将来的にはドラッグデザインまでを目指している。同社の場合、ロボット導入などにより、多くの結晶を構造解析するのが狙いだ。発現に関し

では企業からの受託で遺伝子組み換えによって結晶化しにくい膜たんぱく質を、部分的に作らせるための遺伝子部分を探し発現させることも行っている。

同社の大阪事業所には、インハウスでは世界最高輝度（通常X線発生装置の約20倍の輝度）を持つX線発生装置、分解能可変X線ミラーおよび高速CCD検出器を備えた高性能のX線回折装置を設

置。単波長異常分散法による位相決定が可能なほか、結晶性改善装置を備えている特徴がある。たんに質の種類にもよるが一つの結晶は約20分で



物の探索や設計に貢献できる。構造解析では創薬を意識した自動構造解析ソフトを採用している。

創 結晶化、フルマ X線回折
晶 両社技術 組み合わせ

X線回折装置にセットするロボットを導入する予定で、データ取得から構造解析までを高速化する。X線構造解析では線

和性の低いフラグメント
(化合物)も検出可能。
多くのフラグメントを短
時間で選別することで、

飛躍する関西のバイオ産業

結晶の高品質化につながる。また、X線回折装置の稼動状況を合わせて、創品が結晶を作るといったことも可能になる。このほか、フルマ・アクセスには結晶の質を向上させる装置もあり、分解能の向上が可能になる。2社の強みを組み合わせることにより、高精度のデータを顧客に提供できることになる。

の記事より転載許可を受けて掲載。
本記事の著作権は日刊工業新聞に帰属します。
本記事の改変、他への転載は、これを一切禁じます。